

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
家庭	家庭総合	2	1 年生

1 使用教材

使用教科書	家庭総合 主体的に人生をつくる (大修館書店)
副教材等	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)

2 学習の目標

<p>人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
関心・意欲・態度	人の一生とのかかわりの中で家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	
思考・判断・表現	人の一生とのかかわりの中で家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、よりよい生活を工夫し創造する能力を身に付けている。	
技能	人の一生とのかかわりの中で家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を生活の場で生かせるように総合的に身に付けている。	
知識・理解	人の一生とのかかわりの中で家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を生活の場で生かせるように総合的に身に付けている。	
評価方法	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4項目を定期考査、課題提出、ノート、実習、授業態度により総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	2 学期	期末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義式、班別学習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。 ・ 作品制作なども行うため、実習費 (一括徴収) が別途必要です。 ・ 普段の授業を大切にし、課題やノートなどの提出物は必ず提出してください。 ・ 学習の中で習得した知識や技術を日常生活の中に生かしましょう。さらにそれらをホームプロジェクト活動に発展させ、家庭生活の充実向上を目指しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	オリエンテーション 1章 人の一生と青年期の課題 をみつめよう	家庭総合を学ぶにあたって、学校家庭クラブ活動・ホームプロジェクトについて理解する。 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題や意思決定の必要性について理解する。	期 末
	5	1 人の一生と生涯発達 2 青年期の課題と自立 3 主体的に生きるための意思決定 2章 家族・家庭と社会について考えよう	青年期の自立について考え、男女が協力して家庭を築くことの重要性を認識し、家族を支える社会の仕組みを学ぶ。また、生活設計を通して自己の生き方について考える。 家族の機能と家族関係、家族・家庭の法律、家庭生活と福祉について理解し、男女が協力して家庭を築き生活を営む重要性について認識する。	
	6	1 現代の家族・家庭 2 家族・家庭に関する法律 3 家族・家庭と社会 8章 健康で快適な衣生活をつくろう	人間と被服の関係を通して被服の機能について理解する。 被服材料の種類と特徴について理解し、用途や着用目的にあった選択ができるようになる。 被服構成の基礎を理解し、衣服製作実習を通して基本的な技術を身に付ける。 被服を手作りすることの楽しさや意義を考える。	
	7	○期末考查 3 衣生活の計画と管理 被服製作実習		
		ホームプロジェクトについて		
2 学期	8	被服製作実習		期 末
	9			
	10	4章 高齢期の生活と福祉について考えよう 1 高齢者という時期 2 高齢者の生活と課題 3 高齢者の生活を支える高齢者福祉	加齢に伴う心身の変化・特徴を理解する。 我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者の生活と課題について認識し、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解する。 高齢期を豊かに安心して過ごすために、家族や地域が果たす役割について考える。	
	11	4 高齢者の現状と課題 5章 共生社会をつくろう		
	12	1 とともに生き、ともに自立する 2 生活と社会のセーフティネットワーク ○期末考查	ノーマライゼーションの考え方に基づいた福祉の在り方やボランティア活動に関心を持つ。 地域社会の一員として、役割や支え合うことの大切さを知る。	
3 学期	1	6章 経済生活を設計しよう 1 現代の消費生活 2 消費者問題の現状と課題 3 消費者の権利と責任 4 消費生活における意思決定	消費生活は多様化・複雑化していることを理解する。 商品の購入方法、支払い方法について知り、消費行動における意思決定の重要性を理解する。 消費者問題について理解し、消費生活の安全について考える。	学 年 末
	2	5 家庭の経済生活 ○学年末考查		
	3	10章 持続可能な社会をめざして行動しよう 1 環境と調和のとれた生活 2 持続可能な社会の実現をめざして	持続可能な社会と個人のライフスタイルの関連を理解し実践に結び付けられる。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
家庭	ファッション造形基礎	2	2年生 I 型選択

1 使用教材

使用教科書	ファッション造形基礎 (実教出版)
副教材等	

2 学習の目標

1 被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得する。
2 ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
関心・意欲・態度	衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、衣服を創造的に製作する態度を身に付けている。	
思考・判断・表現	衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断する力を身に付けている。 衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。	
技能	被服製作に関する基礎的な技術を身に付けている。計画に従って能率的に衣服の製作ができる技能を身に付けている。	
知識・理解	衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付けている。	
評価方法	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4項目を定期考査、課題提出、ノート、実習、授業態度により総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	2 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業は座学だけではなく、被服製作の実習を多く行います。 普段の授業を大切に、課題などの提出物は必ず提出してください。 実習には、積極的に参加し、技術の向上を目指しましょう。実習費が別途必要です。 授業で得た知識・技術は、家庭において自分自身や家族の衣生活に生かしてください。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考査 範囲
1 学 期	4	1 章 衣服の構成 1 人体と衣服 2 立体構成衣服と平面構成衣服	着心地のよい衣服を製作するためには、人体の構造や機能、動作時の変化に対応したゆelmi、性別や年齢による体型の変化等を考慮しなければならないことを理解する。 被服の構成について、和服と洋服を取り上げ、立体構成と平面構成の特徴について理解する。 衣服材料の種類と特徴について理解し、製作する被服のデザインや着用目的に合った衣服材料の適切な選択と取り扱いができるようにする。	期 末
	5		基礎縫い（なみ縫い、まつり縫い、半返し縫い、ボタンつけ、ミシン操作）の知識・技術を身に付ける。	
	6	3 章 洋服の製作 1 製作の基礎 2 アウターパンツの製作 ○期末考査	採寸方法について理解する。 縫製に関する基礎的な事項を理解し、技法を習得する。	
	7		立体構成に関する基礎的知識・技術を習得する。 下半身を覆う衣服の構成と動作への適応について理解する。 アウターパンツに適したデザインや素材を理解し、製作をする。	
2 学 期	8	2 アウターパンツの製作		期 末
	9		和服の構成と製作に関する知識と技術を習得する。	
	10	4 章 和服の製作 1 製作の基礎 2 甚平の製作	平面構成に関する基礎的な知識を身に付け、和服製作の技術を用いた甚平を製作する。	
	11			
	12	○期末考査		
3 学 期	1	2 甚平の製作		学 年 末
	2			
	3	3 着 装 ○学年末考査	和服の構成を理解し、ひとえ長着の着つけをする。	

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
家庭	フードデザイン	3	3年生 I 型選択

1 使用教材

使用教科書	フードデザイン 新訂版 (実教出版)
副教材等	調理実習ノート 専門編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)

2 学習の目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭総合における学習を基礎として、食生活を総合的にデザインできるようになる。 2 現代の食生活の現状・問題点について理解し、食事の意義と役割について考える。 3 栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得し、日常食・行事食の調理ができるようになる。
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容
関心・意欲・態度		食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断		食生活を見直し、課題を見つけ、その解決のために思考を深め、工夫する能力を身に付けている。
技能・表現		栄養、食品、献立、調理などに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、手際よく実習ができています。
知識・理解		栄養、食品、献立、調理などに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食事の意義や役割を理解している。
評価方法		関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4項目を定期考査、課題提出、ノート、実習、授業態度により総合的に評価します。
評価の基準	1 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	2 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は座学だけでなく、調理実習なども行います。 ・ 普段の授業を大切に、課題やノートなどの提出物は必ず提出してください。 ・ 実習には、積極的に参加し、技術の向上を目指しましょう。実習費が別途必要です。 ・ 全国高等学校食物調理技術検定 3 級を受験します。(受験料一括徴収) ・ 授業で得た知識・技術は、家庭において自分自身や家族の食生活に生かしてください。
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	オリエンテーション 1章 食生活と健康 1 食事の意義と役割	<p>食事は、生理的役割だけでなく社会的役割も果たしていることを理解し、我が国の食生活についての問題点を考え、自分自身の食生活を見直す。</p> <p>栄養素の種類と特徴について理解し、消化の仕組みと栄養素の吸収・排泄のしくみについて知る。 日本人の食事摂取基準と食事計画について理解する。</p> <p>調理の目的を再確認した上で、実習を行う。食べ物のおいしさについては、様々な要素が影響していることを理解する。</p>	期末
	5	2 食生活をとりまく現状 調理実習 2章 栄養素のはたらきと食事計画		
	6	1 からだのしくみと食べ物 2～7 栄養素 8 消化と吸収 9 食事摂取基準と食事計画 10 ライフステージと栄養計画 調理実習		
	7	○期末考查 4章 調理の基本 1 調理とおいしさ 2 調理操作 調理実習 食物調理技術検定3級		
2 学期	8	4章 調理の基本 3 調理操作	<p>調理操作が料理の出来上がりに大きく影響することを理解し、適切な調理操作ができるようになる。</p> <p>各食品の特徴・調理上の性質・加工品について理解する。</p> <p>乳幼児期から老年期までのライフステージごとの栄養の特徴、食事上の留意事項、調理法の工夫について理解する。</p> <p>日本料理、西洋料理、中国料理など代表的な料理様式について特徴や献立構成、テーブルコーディネートを理解する。</p>	期末
	9	調理実習		
	10	3章 食品の特徴・表示・安全 1 食品の特徴と性質 調理実習		
	11	2 食品の生産と流通 3 食品の選択と表示 4 食品の衛生と安全 2章 栄養素のはたらきと食事計画 10 ライフステージと栄養計画 調理実習		
	12	○期末考查 食物調理技術検定2級 5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート		
3 学期	1	6章 フードデザイン実習 1 献立作成 調理実習 学習のまとめ ○学年末考查	<p>季節や行事に合わせた献立の作成の方法について理解する。</p>	学年末
	2			
	3			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
家庭	子どもの発達と保育	2	3年生 I 型選択

1 使用教材

使用教科書	発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)
副教材等	

2 学習の目標

1 親と子のかかわりが乳幼児の成長発達にとって重要であることを理解する。
2 乳幼児に対する理解を深め、保育に関する知識や技術の習得を通して、望ましい児童観を身に付ける。
3 保育園訪問を通して乳幼児と触れ合い、乳幼児の特徴について理解を深める。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
関心・意欲・態度	乳幼児の発達やの特徴、乳幼児の生活と保育に関心を持ち、積極的に子どもと触れ合うことや、意欲的に実習に取り組む態度が身に付いている。	
思考・判断	乳幼児の発達やの特徴、乳幼児の生活と保育について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断、工夫し、創造する能力を身に付けている。	
技能・表現	乳幼児の発達やの特徴、乳幼児の生活と保育についての基礎的・基本的な技術を身に付けている。	
知識・理解	乳幼児の発達やの特徴、乳幼児の生活と保育についての基礎的・基本的な知識を身に付け、保育の必要性と意義を理解している。	
評価方法	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4項目を定期考査、課題提出、ノート、実習、授業態度により総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	2 学期	期末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 50%、実習点 40%、平常点 10%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は座学だけでなく、作品制作なども行います。 ・ 普段の授業を大切にし、課題やノートなどの提出物は必ず提出してください。 ・ 自分の幼児期の体験や現在の乳幼児を取り巻く環境などを踏まえながら、保育の重要性について主体的に考えてみましょう。また、将来、親となる自覚を高めましょう。 ・ 全国高等学校家庭科保育技術検定 4・3 級を受験します。(受験料は一括徴収)
--

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	オリエンテーション 第1章 人間としての発達 1 人間の発達のなかの乳児期 2 発達観の変遷	人間の発達とライフサイクル、乳幼児期の発達課題について学ぶ。 保育者への愛着の形成、外国と日本の児童観の変遷を理解する。	期 末
	5	第2章 乳幼児の発育 1 乳幼児期の発育の特徴	「発育」「発達」「成長」の関係、胎児から新生児・乳幼児へ、乳幼児期の身体の発育、生理的特徴を理解する。	
	6	第4章 乳幼児の生活 1 子どもの養護 2 子どもの食生活と衣生活 3 子どもの遊び	乳幼児期の食生活の特徴を理解し、乳汁栄養から離乳食・幼児食へ、発育・発達に応じた食事の意味を考え理解する。また、乳幼児に適した被服の素材・型・被服計画について理解する。 児童文化財の種類を知り、それらの役割を理解し、実際に作品を制作する。	
	7	○期末考査 保育技術検定4級（4種目）		
2 学期	8	4 生活習慣としつけ	乳幼児の基本的な生活習慣、子どもの病気とその予防、現代の子どもの健康について知り、安全教育について理解する。 子どもの育つ環境の変化、子育てに対する意識の変化を考える。	期 末
	9	5 子どもの健康管理		
	10	6 子どもの事故と安全 7 子どもの生活と環境		
	11	第3章 乳幼児の精神発達 1 乳幼児期の発達の特徴 2 乳幼児期の精神発達 3 対人関係の発達 4 心の健康と精神保健 ○期末考査		
12	第5章 乳幼児の保育 1 保育の意義 2 保育の目標と大人のかかわり 3 家庭保育と集団保育 保育技術検定3級（1種目） 保育実習	「保育」とは何かを考察し、保育者としての具体的援助方法を理解する。 家庭保育と集団保育の役割を理解し、保育所と幼稚園の違いを知る。		
3 学期	1	第6章 乳幼児の福祉 1 子どもの福祉とは 2 子どもの福祉と法律・制度 3 これからの子どもの福祉 保育実習 ○学年末考査	乳幼児が心身ともに健やかに育つための児童福祉の理念や法律と制度について理解するとともに、近年の児童家庭福祉の考え方と子育て家庭への支援に関する施策について知る。	学 年 末
	2			
	3			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
家庭	家庭総合	2	2年生

1 使用教材

使用教科書	家庭総合 主体的に人生をつくる (大修館書店)
副教材等	家庭科ノート 改訂版 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) 調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)

2 学習の目標

<p>子どもの発達と保育・福祉、食生活、住生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>
--

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点	内 容	
関心・意欲・態度	人の一生とのかかわりの中で食生活、子どもの発達と保育、住生活などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	
思考・判断・表現	人の一生とのかかわりの中で食生活、子どもの発達と保育、住生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、よりよい生活を工夫し創造する能力を身に付けている。	
技能	人の一生とのかかわりの中で食生活、子どもの発達と保育、住生活などに関する基礎的・基本的な技術を生活の場で生かせるように総合的に身に付けている。	
知識・理解	人の一生とのかかわりの中で食生活、子どもの発達と保育、住生活などに関する基礎的・基本的な知識を生活の場で生かせるように総合的に身に付けている。	
評価方法	関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4項目を定期考査、課題提出、ノート、実習、授業態度により総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	2 学期	期末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 60%、実習点 30%、平常点 10%
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義式、班別学習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。 ・ 調理実習を行うため、実習費 (一括徴収) が別途必要です。 ・ 普段の授業を大切に、課題やノートなどの提出物は必ず提出してください。 ・ 全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級を受験します (受験料は一括徴収)。 ・ 学習の中で習得した知識や技術を日常生活の中に生かしましょう。さらにそれらを発展させ、ホームプロジェクト活動につなげましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	7章 生涯の健康を見通した食生活をつくろう 1 食生活の成り立ち	<p>食事の役割や現代の食生活の特徴について知り、自らの食生活の問題点を把握して、食生活を改善する方法を考える。</p> <p>健康な食生活を送るには、どのような栄養素をどれくらい摂ればよいのか、また、各栄養素の機能と栄養所要量、食品群別摂取量の目安を理解する。</p> <p>環境に優しい食品選び、食品の保存、食中毒、食品添加物について理解し、安全に配慮した食生活について考える。</p> <p>食文化に関心を持ち、食文化がどのようにして現代に伝わり、私たちの生活にどのような形で根付いているのかを知る。</p> <p>調理実習を通して、調理の基本を学び、調理法・調理技術・配膳・食事マナーについて理解する。</p>	期末
	5	2 栄養と食品		
	6	3 安全で環境に配慮した食生活 4 食の文化を考えよう		
	7	調理実習 ○期末考查 食物調理技術検定4級 ホームプロジェクトについて		
2 学期	8	5 健康につながる食事計画 6 調理の基本を学ぼう	<p>ライフステージに応じた食事と献立を考える。 調理の目的と方法、知識・技術を知る。</p> <p>子どもを持つことについて学び、現在の自分自身の生活が大切であることに気付く。 子どもの体と心の発達の仕方について理解する。</p> <p>子どもとおとなのかかわりについて理解する。 子どもを育てる上で注意すべきこと、保育者としての心構えを考える。 子どもが安心して暮らせる社会作りに必要なものとは何かを考える。</p>	期末
	9	3章 子どもと子育てについて知ろう		
	10	1 子どもの誕生 2 子どもの成長・発達		
	11	○期末考查		
	12	3 子どもの生活と保育 4 子育てと子どもが育つ環境		
3 学期	1	9章 安全で快適な住生活をつくろう 1 住生活の成り立ち 2 家族の生活と住生活 3 健康で安全な住生活 4 よりよい住環境の実現をめざして	<p>住居の役割や重要性を理解する。 快適で安全な住居や住生活の在り方を考え自分の生活に生かせるようになる。 住宅構造の基礎知識を学び、家族の住要求にあった住空間作りができるようになる。 住生活と地域社会との関わりを理解し、地域の一員として生活する態度を身に付ける。 自分の夢や希望を実現するための職業生活・家庭生活・地域社会生活・経済生活について、多角的に考える。 これまでの学習を踏まえ、長期的な生活設計を立案する際の課題を知り、実際に立案することができるようになる。</p>	学年末
	2	11章 生活をデザインしよう 1 ライフプランを考えよう		
	3	○学年末考查 2 問題を解決してよりよい生活をつくろう		